

地球環境と産業化研究会（SGEIS）

「気候危機とエネルギーの基礎講座」実施報告書

概 要

テ ー マ：気候危機（極端な気候変動）とエネルギー

内 容：「気候危機」は、環境破壊や自然災害、異常気象、食料不安と水不足、経済の混乱、紛争やテロを助長するなど、平和や社会の安定を脅かす大きなリスクになっている。

気温の上昇が引き起こした数々の自然災害が、人々の生活基盤を不安定にし、争いを生んでいる実情を知るとともに、地球温暖化を止める「脱炭素化」への国内外の最新動向や今後の見通しについて学ぶ。あわせて、大学や地域で活動する若者の取り組み事例を紹介いただき、「どう実現していくか」について参加者の皆さまと考える。

【講 義】脱炭素化 ― 最新動向と今後の見通し

（公財）地球環境戦略研究機関 ビジネスタスクフォース ディレクター 松尾雄介 氏

【発 表】若者の取り組み事例

①大学再エネ化プロジェクト ― 太陽光発電導入量算定とコスト回収に関する検討

尾上 幸

②GWC Thinkers の取り組み ― これまでの活動を通じて感じたこと

田崎 萌、佐藤海月

日 時：2023年2月25日（土） 13時30分～15時30分

13:30～13:35 主催者挨拶・進行について

13:35～14:35 講 義（講義50分、質疑応答10分）

14:35～15:05 発表①（発表10分、意見交換20分）

15:05～15:35 発表②（発表10分、意見交換20分）

15:35～15:40 事務局連絡・終了

場 所：オンライン形式（Zoom ミーティングプロ）

主 催：地球環境と産業化研究会

参加者：25名、うち学生7名（31名、うち学生7名）（ ）の数字は参加申込者数

配 布 物

- 松尾雄介、『日本の脱炭素経営の課題 ～危機感の違いが産む、世界との差～』
<https://japan-clp.jp/archives/12001>（参考資料）
- 尾上 幸、『大学再エネ化プロジェクト ― 太陽光発電導入量算定とコスト回収に関する検討』
- 田崎 萌、『GWC Thinkers の活動 ～2022～』
- アンケート
- 地球環境と産業化研究会（SGEIS）リーフレット

内 容

- 【講義】 脱炭素化 ― 最新動向と今後の見通し

① 気候変動が人類のリスクと捉えられていることを知る。

- ・ 気候変動は、猛暑や洪水などが及ぼす気象災害だけではなく、食料、健康、貧困、移住、紛争まで、幅広い問題を引き起こすと指摘されている。

- ・ 気候変動は、もはや気候危機と呼ぶべきものであり、社会を持続不可能にし、人類の脅威となっているという国際的な共通認識ができています。

② 「1.5℃の目標達成には、どうすればよいのか」「どういう規模・速さでの変化が求められているか」について知る。

- ・ 気温上昇を 1.5 度に抑制するために計算された CO₂の累積排出量の上限の目安を「炭素予算（カーボンバジェット）」という。

- ・ CO₂は放出されると長期間大気中に留まるため、その蓄積量を加味して上限を課さなければならず、基本的に先進国では、電力部門はあと 10～15 年で CO₂排出量ゼロ、その他のエネルギーもあと 20 年程度で CO₂の排出量ゼロが求められている。

- ・ 日本の再エネ発電ポテンシャルは、経済性があるものに限定しても電力需要の 2 倍以上がある。

- ・ 気候変動問題の解決には「政策・制度」が必要であり、政策導入には各業界や国民の支持が必要である（脱炭素化への技術・資金・物理的要素は既にあること、必要なのはスピード感とシステム転換、迅速にシステムを変えるには政策しかない）。

質疑で 2 名の発言があった。「気候変動がもたらす社会への脅威への日本における危機感の欠如はどこからくるのか?」、「学校教育で気候変動に関する授業の必修化することも必要では?」について議論された。

- 【発表】 若者の取り組み事例

① 大学再エネ化プロジェクト ― 太陽光発電導入量算定とコスト回収に関する検討

京都女子大学を再エネ化するにはどうしたらよいのか、その検討結果について報告いただいた。

- ・ 電力需要の特定と電力会社変更による再エネ化の可能性

- ・ 自主電源としての太陽光発電導入ポテンシャルとコストの特定

- ・ 太陽光発電導入を可能とする経済的スキームの検討

発表者から求められた「活動の継続に必要なこと」「地域における大学の役割」「若者の活動への印象」について、発表者と参加者との間で意見交換が行われた。

②GWC Thinkers の取り組み — これまでの活動を通じて感じたこと

地球温暖化防止に向けた企業の技術や取組の現場取材した内容、関係団体の行事に参加した経験などを、広く発信することを目的にした啓発活動について報告いただいた。

- ・環境活動に取り組む企業訪問（株式会社ニプロン、株式会社神戸酒心館）
- ・GO GREEN KOBE トークライブ、ひょうご里山フェスタ 2022、第 4 回ひょうごユース eco フォーラムへの参加

発表者から求められた「多くの人から、環境問題に興味を持っていただくためには？」「今後こんな風に活動したい」について、発表者と参加者との間で意見交換が行われた。

以上(世話人 土井淳 記)